



占い研 辰羽 専門用語解説

命式に出てくる言葉

四柱	生年月日を年柱、月柱、日柱、時柱の四つの柱に見立てて推命。それぞれ年柱は先祖、月柱は親・社会、日柱は自分・配偶者、時柱は子供・晩年の運氣
天干・地支	各柱は、天干（天の運氣）と地支（地の運氣）の組み合わせからなる。
十干 じっかん	十干とは、自然界を5つに分類し（五行）、さらに陰と陽に分けたもの。 甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸の十干をいう。
十二支 じゅうにし	十二支とは、暦の単位で12等分（例えば年を12等分）して名前を割り付けたもの。なじみの子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥のこと。
通変星	（つうへんせい）自分自身である日干と他の干との関係から導き出される星。 比肩・劫財・食神・食傷・正財・偏財・偏官・正官・偏印・印綬の十干。
十二運星	パワーや気質を、人生のサイクルに例えて生から死まで胎～絶で表したもの。
神殺	読み解くときに補助的に使う暗示。駅馬、華蓋、血刃などの言葉がある。
空亡	誰でも十二年に一度来る天が助けてくれない2年間。転職や結婚には不向き
調候用神	生まれた月の季節を調節する星。例えば冬月生まれなら丙が温めてくれる
身旺身弱	命式全体のバランスで、わが身が強い人を身旺、弱い人を身弱とする。

解説に出てくる言葉

月支元命	日干から見た生まれ月の地支の通変星で才能や社会的使命を表す重要な星
五行	自然界を木・火・土・金・水の五つ気（五行）に分類したもの。
陰陽	世界は陰と陽でできているという古代中国の思想。例えば男女、白黒など
相生 そうせい	五行の力関係で、相手を生み育てる関係。例えば水は木を育て、木は燃えて火を生む。火は土を、土は金を金生水を生む。木⇒火⇒土⇒金⇒水
相剋 そうこく	相手を酷し（やっつける）、剋される関係。木は金の斧で倒され、火は水で消され、土は木に糖分を、金は火で溶かされ、水は土で止められる。
冲 ちゅう	反発する地支の組み合わせ。冲はぶつかる、離れるという意味。家から離れて結婚の意味も。子午の冲、卯酉、辰戌、巳亥、寅申、牛未。
干合	特別な十干の組み合わせ。他の五行に変化する場合も。甲己干合など。
支合	特別に結びつく十二支の合、合はくっつく、動けないの意味。吉も凶もある。
三合	三つの十二支の特殊な関係。五行の力が変化する、寅午戌の三合火局など
方合	季節の十二支が三つそろふこと。例えば夏の季節巳午未が夏方合を形成
天地徳合	天干が干合して地支も支合する年。60年に一度年運で巡ると吉とされる
天戦地冲	天干が剋されて、地支が冲されるとき。何が起きても不思議ではない。吉凶あり
併臨	日柱の干支と全く同じ干支が年運で訪れるとき。生き方が変わるような変化が。
大運・年運	大運は10年ごとに巡る運、年運は毎年来る運勢。26年は丙午（ひのえうま）